

WHO神戸センターへの支援終了に関するコメント

神戸商工会議所

会頭 川崎博也

WHO神戸センターは、阪神・淡路大震災の創造的復興のシンボルプロジェクトとして、官民を代表する先人達や多くの関係者の尽力により、神戸に誘致・設立された。

以来、復興の歩みと軌を一にし、神戸が国際都市として再起していく上において、健康開発面で国際社会に貢献する同センターが当地に立地し、果たしてこられた役割や存在感は大きい。

グローバルレベルでの健康課題の研究を中心としながら、認知症の社会負担を軽減する地域モデルの展開など地元への還元にも努めてこられた。その尽力に感謝したい。

震災三十年を経て、復興プロジェクトとしての目的を概ね果たされ、支援終了となるが、引き続き神戸での活動期間終了まで地元官民でサポートしていく。

令和七年二月二十一日